

# 国鉄35万人体制とは何か

## その1

政府・国鉄当局は、七月二日、「国鉄再建の基本構想」案を発表、一九八五年までに七万四千名の要員削減を強行し、国鉄三五万人体制を確立する大合理化計画をあきらめた。この「国鉄三五万人体制」攻撃の本質をしっかりと見つけた反合闘争の構築は、国鉄労働者のみならず全労働者階級にとって急務である。以下何回かにわたり、「国鉄三五万人体制」攻撃の本質を明らかにしてゆきたい。

# 攻撃の本質を見極め、職場からの闘いを構築しよう!

われわれは、まず第一に「国鉄三五万人体制」攻撃とは、これまでの「第一次五ヶ年計画」以降数次にわたる国鉄合理化とは全く質を異にしているということを見なければならぬ。

この間の数次にわたる「長期計画」に基づく合理化攻撃が、文字通り「輸送力増強」に主眼点をおいたものであったのに比して、この「三五万人体制」攻撃が、明確に支配の側からする「総合交通体系」の構想に基づく国鉄業務の切捨て、縮小に重点をおいたものであり、この合理化攻撃を通して直接的には、第一に、日本労働運動の戦闘的主軸である国鉄労働運動を解体し産報化する、第二に、労働者への労働強化や運賃値上げを通して国鉄を大衆収奪機構としてのより一層強化させ、第三に、新幹線をはじめとする無用な新線建設、ローカル線や従来の形の貨物輸送の切捨てと武操型の貨物輸送体系の完成等々による大資本、大企業への奉仕機関としての純化、等々を狙ったものである。

そして、この国鉄における七万四千人という大合理化攻撃を突破口として、高齢化社会における全体的な労働力の配分や年金制度の改悪等々、大衆収奪と弾圧の強化による反動と暗黒の政治への

傾斜を一挙におし進めようとするものである。今日、体制的危機にあえぐ政府・支配者階級は、外に向っては東京サミットに見られるように、着着と侵略戦争の体制へ突き進み、内においては元号法制化をはじめ数々の反動立法を強行し、労働運動、住民運動を圧殺し、侵略戦争のための「挙国一致」体制を作りあげようとしている。そういう支配の側の大衆収奪と大衆運動の弾圧による軍国主義化の政策の一環として、「国鉄三五万人体制」攻撃があることを、われわれははっきりと極め、職場、生産点からの反撃の闘いを創りあげてゆくのでなければならない。

### 「安定宣言」を廃棄し、真の反合闘争を!

「安定宣言」は労働者・人民を支配の側に売り渡すものである。動労は「53・10」を「安定宣言」をもって闘わずして敗北したということを、職場・生産点は痛いほどに感じている。動力車職場を守るために「安定宣言」を廃棄し、真の反合闘争を構築してゆこう。

「本部」佐藤正喜中央執行委員(秋田地本出身)が七月一〇日付で辞任した。

われわれは、「組合員に嘘をつかない」ために中執を辞任する決断をした佐藤氏の中に、動労「本部」の意識分裂と組織的亀裂をはっきりと見る事ができる。

盛岡地本元書記長・橋本四郎氏の「造反」をはじめ、全国の良心的組合員が公然と「本部」革マル反動集団の動労私物化||暴力支配に反対の意志表示を開始しているのだ。

七月二六日付で発せられた佐藤氏の「あいさつ状」には、この間一連の千葉「オルグ」で「中執が青年部に引きまわされている」状況をはじめ、動労の組織運営が「規約・諸規則を軽視し」「唯一党派の方針を持ち込み」、「第三四回津山大会に見られるように最終的には暴力」をもってする「機関決定」が行われる中で、中執としてあることの苦悩と憤りが赤裸々に述べられている。

## 佐藤中執辞任!

### 暴力支配に抗して 全国で続々決起!

第一〇五回臨中においては、この間の「本部」革マル反動集団による千葉地本排除↓動労千葉破壊策動を全面的に否定する「特別決議」が全国の一〇地本、一分科の中央委員から共同提案

第一〇五回臨中においては、この間の「本部」革マル反動集団による千葉地本排除↓動労千葉破壊策動を全面的に否定する「特別決議」が全国の一〇地本、一分科の中央委員から共同提案

さらに動労大改革へ向けて前進しよう。

